

「一人一人が主役に」

札幌でまちおこし交流会

道内各地で地域活性化に取り組み人たちが集まる「全道しごとおこし・まちおこし人情報交流会」（実行委主催）が18日、札幌市内のホテルで開かれた。企業や自治体の関係者や自営業者ら約130人が参加。先進事例を学び、交流を深めた。

（関口裕士）

事例紹介では、石狩市厚田区で来年4月に開業する「道の駅石狩 あいろーど厚田」の運営会社の吉田和彦社長が、道の駅を通じた観光振興などを報告した。吉田さんは、「恋人の聖地」にも認定された厚田公園の美しい夕日や豊富な農水産物などを紹介し、「石狩は札幌や小樽という観光地に囲まれて地味だったが、もっと自分たちの地元を自慢できるようになって

ほしい」と話した。また道の駅と地元のかかわりについて「（そこで働く）一人一人が、まちを代表する主

役となって活躍できる場になりたい」と抱負を語った。これに先立ち、農林水産省就農・女性課の佐藤一絵課長が、女性の農業者を支援するプロジェクトを紹介し「農業界の女性を助演女優から主演女優に押し上げたい」と講演した。女性農業者を交えたパネル討論では、美唄市の内山佳奈さん（41）が「農家の視野を広げたい」、石狩管内新篠津村の大塚早苗さん（47）は「現場から意識を変えていく必要がある」と話した。



女性が活躍できる農業について意見を交わす（左から）佐藤一絵課長、内山佳奈さん、大塚早苗さん